

平成 27 年度小笠原諸島世界自然遺産地域連絡会議及び  
地域連絡実務者会合における意見・課題への対応状況

(1) 新たな外来種の侵入・拡散防止に関する地域課題 WG について

|              | 意見  | 対応状況  |
|--------------|---|---|
| ＜外来種の侵入防止対策＞ |   |   |
| 1            | 外来プラナリアの侵入防止に関しては父島→母島だけでなく沖縄等、島外からの移入対策にも重点を置いて考える必要がある。 | プラナリアや土壌動物が紛れている可能性の高い土付き苗については、イエシロアリ分布域から母島への移入は条例に基づき禁止という前提で、母島島内での苗の需要への対応を検討する。   |
| 2            | 土付き苗の温浴処理を運用できる体制を一刻も早く整えてほしい。実働部分の詰めが必要。                 | 東京都小笠原支庁では、母島内における植栽工事等について、集出荷場に設置されている装置を使用し温浴処理を行う予定。マンゴー苗に対する温浴処理後の影響試験を亜熱帯農業センターで実施するほか、温浴処理のための体制づくりを地域課題 WG で引き続き検討する。 |
| ＜検討対象＞       |   |   |
| 3            | 島内で販売されている内地からの花木について、防疫機関がチェックしているか確認してほしい。              | 植物防疫の規制対象以外については、チェックは行われていない。  |
| 4            | 土だけではなく、果実にも注意が必要である。<br>(例：ガジュマルコバチの拡散)                  | 植物の意図的な導入について、ブラックリスト等を活用した普及啓発の内容・方法を検討する。   |
| 5            | ガジュマルは侵略性の高い植物であるので、農協で農業者に対して注意喚起する等の措置をとっていただきたい。       |   |
| 6            | 小笠原の固有種と同属の植物が侵入し、交雑するリスクも懸念される。                          |   |
| ＜ツヤオオズアリ対策＞  |   |   |
| 7            | 母島のツヤオオズアリ既侵入地域における対策を早急に実施できるよう、予算と体制を明確にしてほしい。          | 母島の南崎においては、地域の団体と行政機関により 3 月より対策が開始され、7 月より環境省事業が開始される予定。   |
| 8            | ツヤオオズアリのよう行政的な受け皿が明確でないものへの対策を検討する場として、                   | 平成 28 年度中は、科学委員会下部「陸産貝類保全 WG」で適宜専門家   |

|                            | 意見  | 対応状況   |
|----------------------------|---|--|
|                            | 科学委員会下部「新たな外来種の侵入拡散防止 WG」は早期にリニューアルした体制を検討してほしい。                                    | の助言を仰ぎ、ツヤオオズアリ作業部会で対策の検討を進める予定。                                      |
| <b>&lt;会議の進め方・検討体制&gt;</b> |   |  |
| 9                          | 侵入の未然防止を最優先に考え、新たな外来種の水際対策を議論する場を設けてほしい。  | 「新たな外来種の侵入・拡散防止に関する地域課題 WG」及び「地域連絡会議管理計画改定作業部会」において対策の実施促進のための議論を行う。 |
| 10                         | 地域課題 WG では議論に必要なステークホルダーが揃うよう、会議の位置づけや構成メンバーは入念に調整を図ってほしい。                          | 各回のテーマ・各参加者の参画立場を明確にし、適切な呼びかけを行う。                                    |
| 11                         | 課題ごとに検討の枠組みを整理した上で、次回以降のワーキンググループの体制を検討する必要がある。従来の地域連絡会議の枠組みは広げるが、課題自体は絞りこむのがよいと思う。 |  |

(2) 有人島におけるネズミ対策について

|    | 意見  | 対応状況   |
|----|---|--|
| 12 | 有人島でのネズミの生息状況や被害の実態を調査した上で、有人島のネズミ対策も検討してほしい。<br>「小笠原諸島からのネズミの根絶」を目標に掲げ、根絶に向けたシミュレーションを行った上で長期的スケジュールを定めてほしい。 | 有人島でのネズミの生息状況モニタリングを、環境省、東京都小笠原支庁、小笠原村等で実施する。「平成 28 年度 小笠原諸島における有人島のネズミ対策実施計画」において、今年度の対策を示している。 |
| 13 | 実施計画(案)は、民間の知識や困っているツボが押さえられていない消極的な内容であるという印象を受ける。現場サイドと共に具体的な作戦を考え、効果のある内容にしてほしい。                           | 自主防衛への支援の一環として、自己所有地における駆除に用いるかごわな貸出等を開始し、具体的なニーズの把握に努めている。                                      |
| 14 | かごわなやベイトステーションの使い方も改良の余地がある。  | 兄島で、混獲や非対象種による殺鼠剤誤食を防ぐために改良を行っており、この知見を活かせる。   |
| 15 | 捕獲・処理方法を精査した上で、住民参加型で対策にあたる必要がある。   | 一斉防除を検討する前段階として、村でかごわなの貸出を開始している。  |
| 16 | 殺鼠剤を撒くとなればノスリやカラスバトへ影響が出る可能性があるので、使い方は慎重に考えてほしい。  | 有人島における殺鼠剤の散布は、より一層慎重に考えるべきであるが、仮に殺鼠剤を撒くことになれば、ネズミ対策検証委員会で示されたようなリスクに留意しながら、非対象種への影響を避けることとする。   |
| 17 | 一般の人にも十分に情報周知を行ってほしい。   | 兄島における殺鼠剤散布について、住民説明会及び情報センターだよりによる周知・説明を行ったほか、有人島における対策についても、村民だよりにて特集記事を掲載した。                  |
| 18 | 殺鼠剤購入費の補助額は十分とは言い難い。  | 平成 26 年度途中から購入制限を緩和し、平成 27 年度からは補助率を引き上げており、引き続き農業者ニーズの実態把握に努める。                                 |

(3) 平成 28 年度の世界遺産管理にかかる主な会議・説明会等について

|    | 意見  | 対応状況   |
|----|---|--|
| 19 | 検討会の数が膨大なので、不要な会議の解散や統廃合を行い効率化すべき。                          | 会議の統廃合に努めているが、多岐にわたる議題への対応のため、必要と思われる会議を開催している。                  |
| 20 | 一般島民には参加しづらい内容のものが多いため、地域連絡会議のメンバーが自分ごととして参加しやすい仕組みを考えてほしい。 | 参加者の位置づけと意見を求める点を明確にする。会議内容について、情報センターだより等で周知する。                 |
| 21 | 地域連絡会議と科学委員会のコミュニケーションの取り方を具体的に示してほしい。                      | 地域連絡会議に対し、科学委員会及びその下部 WG の傍聴を案内するほか、地域連絡会議の結果概要は随時科学委員会委員にも共有する。 |

(4) 遺産管理計画・アクションプラン改定 WG について

|    | 意見   | 対応状況  |
|----|--|---|
| 22 | 次期管理計画の策定にあたっては、科学的知見のある人、現場の知識がある人、組織論として何ができるかを考える人、影響を受ける島民の4者が話し合う必要がある。 | 科学委員会下部の WG と地域連絡会議下部の作業部会の合同開催により、左記の役割を担う者での議論が可能となる。 |
| 23 | 管理計画は概念論に終止せず、今後 5 年間で実施することを具体的に反映してほしい。                                    | 管理計画で管理の方向性を示し、アクションプランで5年間の短期目標を示すこととしたい。              |
| 24 | 管理計画・アクションプラン改定 WG は国立公園の管理計画との整合も図っていただきたい。                                 | 並行した作業となり、整合を図りつつ進める。                                   |

(5) その他

|    | 意見                                     | 対応状況               |
|----|--|--------------------|
| 25 | 母島ではウミガメがネズミによる被害を受けている。一層のご支援をお願いしたい。 | 専門家とも相談し、技術的助言を行う。 |